

祝350号

【週刊タバコの正体】

2013/07 和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 25

- (No. 348) 第13話 タバコってどんな感じ
-タバコへの好奇心や憧れ...大人になるため?強くなるため?
- (No. 349) 第14話 勝手に吸わないで
-副流煙による受動喫煙をあなどってはいけない
- (No. 350) 第15話 恐るべし、副流煙
-『灰皿でくすぶっているタバコの方が危険』だって、知ってる?

※夏休みのため8月号では休載します。次回は9月号になります。

URL:http://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_2011.html

- ※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
- ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
- ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。



毎週火曜日発行





Serial number 350

週刊 **タバコの正体**

第15話

タバコの先から出る煙(副流煙)は、喫煙者本人が吸い込む煙(主流煙)よりも有害です。だから、他人のタバコの煙を吸われる受動喫煙は有害なのですが、でも、どうしてなのでしょう。

それは、タバコが燃える温度と吸い口についているスポンジ状のフィルターが関係しているのです。

◆ だばこの煙から出る有害物質 ◆

主流煙	副流煙
ニコチン 0.48mg (10本吸った時)	ニコチン 1.27mg (10本吸った時)
タール 10.2mg (10本吸った時)	タール 34.5mg (10本吸った時)
一酸化炭素 31.4mg (10本吸った時)	一酸化炭素 148mg (10本吸った時)



煙を吸っていない時、タバコの先端の温度は500℃程度である。

煙を吸いこむ時、タバコの先端の温度は900℃にも達するため、発癌物質も分解される。

主流煙

日本生活習慣病予防協会(株)のWebサイト「禁煙科学」より引用

右図を見て下さい。喫煙者が煙を吸い込んでいない時の温度は500℃なのに対し、吸い込むと900℃まで上昇します。これは瞬間でタバコを吸い込むと先端が明るく光る事からもわかります。吸い込んだ直後十分に燃焼する酸素が供給されている状態で、タバコに含まれる有害物質の多くは分解されてしまいます。そして、この煙はフィルターを通過するため、さらに有害物質は少なくなります。

ところが一方、火が付いたまま放置されているタバコの煙はどうでしょう。温度は単分の500℃しかありません。これは十分に燃焼するだけの酸素が供給されていないからです。つまり、くすぶっているのと同じで「不完全燃焼」をおこなっているわけです。不完全燃焼をおこなうと一酸化炭素が多く発生するのに加え、温度が低いので有害物質の多くは分解されません。おまけにこの煙は、フィルターを通過せず灰皿あたり一面に漂ってしまいます。

いかがでしょう、「恐るべし」副流煙」と感じませんか。そして、そんな副流煙が突然煙がよぬ社会は夢のない、と思いませんか。でも現実には、この事実を知っている人は非常に少ないので、タバコを吸い続ける人が多いです。

そこで、これから大人になる若たちがタバコを吸わない事を願い、いつの日か、どこに行っても夢心できる社会になる事を願っています。

産業デザイン科 奥田 恭久



